

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	野田市立あさひ育成園		
○保護者評価実施期間	令和7年2月17日		令和7年3月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年2月17日		令和7年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士、看護師、理学療法士等、多職種で連携を取って療育にあたっている。	・常勤で看護師がいるため、医療的ケアの必要な子どもにも療育を提供することができる。 ・専門職同士で連携が取りやすい。 ・週に1日、市から作業療法士が派遣されている。 ・年に1回、日本大学松戸歯学部先生による摂食嚥下指導があり、指導内容を療育に取り入れている。	・市の作業療法士が入っているため、指定管理としては市とのやり取りがスムーズに行えている。現状を知ってもらえる機会でもあるため、現状や保護者ニーズにあった職員配置等を今後も一緒に検討していきたい。
2	保護者と情報共有がしやすい。	・送迎時に家での様子や園での様子を確認している。 ・保護者会（任意参加）を実施し、保護者とコミュニケーションを取る機会を設けている。	・保護者会は行事等のお知らせや保護者同士の交流等を目的としているが、園への要望や取り組んでほしい行事等、ニーズ確認できる時間を設けたい。
3	幼稚園や保育所に並行通園している園児も多く、通園先と連携できている。また、支援学校との連携、教員の見学等もあり、引継ぎ等もスムーズにできている。	・保護者や幼稚園・保育所の職員からのニーズがあれば、速やかに対応できるように心がけている。 ・幼稚園・保育所等からの見学を随時受け入れている。 ・保育所等からの紹介で外来療育相談につながるケースもある。	・特に外来療育相談については、認知度が低いようなので、保健センターとも協力し、幼稚園・保育所等へ広報できるようにしたい。また、紹介して下さった幼稚園・保育所との連携ができるように、保護者の同意を得た上で情報共有等を引き続き行っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流の機会	・交流可能な保育所等の開拓。 ・先方へ出かけて交流する際の移動手段がない。 ・事業所へきていただいて交流する場合、室内・園庭ともに受け入れられる広さがない。 ・園外療育などで、室内遊園地等へ出かけたり、市のこども館等へ出かけるが、「交流」と呼べるかは疑問。	・保健センターを通して保育課等の関係機関との相談 ・先方へ出かける場合の移動手段の検討 ・医ケア児も在籍しているため、園児の体調や感染症対策等の環境面への配慮
2	送迎バスはあるが利用が難しい園児が多く、保護者に送迎をお願いしている。	・現在のバスは、市販のチャイルドシートを使用しているが、オーダーメイドのカーシートでないと安全を確保できない園児に利用してもらうことが困難。 ・送迎バスのサイズでは自宅まで送迎することが困難。バス停を設けているので、バス停までの送迎、バス停でのスムーズで安全な乗車等、課題が複数ある。	・現状と課題について保健センターと情報共有、手立ての検討 ・保護者送迎のメリットは保護者とコミュニケーションを取る機会を多く持てること。事業所送迎になった際にはその点の工夫が必要
3	建物の老朽化	・指定管理で運営しているため、野田市を通して修繕等が行われる。都度報告や依頼をさせていただくが、時間がかかる場合がある。	・保護者のニーズ等を把握し、引き続き市との仲介を行う。